

5 セクハラ防止講習

「じゃ、ごめんカナン。」

二人の女性がセクシャルハラスメントについて話しています。二人は学生時代の先輩と後輩で、後輩は会社員、先輩は会社の経営者として活躍しているようです。

「この間のセクハラ事件、今日、職場の先輩に相談しました。」
「それね。」

「トラブルメーカーだと思われて、会社に目を付けられるから、話を大きくしないほうがいいよ…」

「えーっ！」
「相手はコミュニケーションのつもりなんだから、上手にかわすのも仕事のスキルのひとつだよ。…」そう言われました。

「そんなのおかしいわよねー。誰もが働きやすい職場をひくくするのは会社の義務じゃない。きちんと声を上げないと、職場の環境は変わらないわよね。」

「そうですよね…」

「私が以前働いていた会社でね、セクハラを受けたと声を上げた女性の先輩がいたの。営業成績もトップで、みんなから尊敬されていて、私の憧れだったの。でも、その会社にはセクハラ相談窓口はあったけど、具体的な職場改善にはつながらなかったの。結局、その先輩は会社を辞めなくなって退社してしまってたわ。」

そんな経験もあって、私の会社ではハラスメントの相談窓口からの情報を、すべて職場改善に活用しようとしているの。」

「そうだったんですか。でも、今の私の会社じゃあ…」

「確かに声を上げるのは勇気がいるんだけど、世界にはこんな動きもあるのよ。」#MeToo、知っている？」

「ああ、聞いたことあります。」

「#MeToo」というのはね、アメリカのハリウッドで始まった、セクハラなどの性被害をSNSなどのネットで告発する動きのことよ。」

「私、有名人でもないし、まじでやネットなわっ…」

私は、「#MeToo」は泣き寝入りする必要はない、イヤならイヤと断つこと、という意味の活動だと言っている。#MeToo「こよいて勇氣つけられて、行動できる人が増えていけばいいんじゃないかと思うの。ねえ、もう少し話を聞かせて。いい方法がないか一緒に考えたいよ。」

「ありがとうね。」

いかがでしたか。

セクハラ防止の取り組みが始まって二十年以上になりますが、いまだにセクハラは後を絶ちません。この問題の解決に向けて一人が、自分自身のこととして向き合っていくことが必要なのではないでしょうか。

では、また。